

剣淵町でインターンシッププログラムを実施しました！

8月27日（水）から9月9日（火）までの2週間、初の試みとしてインターン生の受け入れを行い、2名の大学生が剣淵町で活動しました。

※この取組は、地域おこし協力隊インターンシップ制度を活用しています。

《本事業の目的》

就業体験であるインターンシップは、広く人材確保や企業PRの一環として実施されており、行政でも同様に取組が行われています。本事業では、設定したテーマに沿った地域活動や個人課題探究活動に取り組んでいただきました。

インターンシップ参加者



はるな
高橋 遥奈さん
北海道科学大学
未来デザイン学部
人間社会学科 3年

おうは
佐藤 桜羽さん
北海道科学大学
工学部建築学科 2年



—— 活動の様子 ——

～テーマ「道の駅リニューアルについて考える」～

《テーマ達成に向けて》

今回のインターンシップでは、建設して約20年を迎える道の駅のリニューアルについて、役場の若手職員8名と共にグループワークを計3回行いました。

その他にも個人課題探究活動として、まちづくりに関することを学ぶためにけんぶち絵本の里を創ろう会の皆さんへの聞き取りやイベント運営業務、開村祭など役場業務の支援、剣淵高校が進めている剣淵高等学校魅力化発信プロジェクトや未来のしんろ系列について聞き取りなども行い、限られた期間、滞在している中でできることを日々議論しながら取組を進めました。



～グループワーク成果発表～

A班（高橋遥奈さん）

ブランドイメージ

「絵本激おし！自分探しの旅を！」

カギとなるメッセージ

剣淵＝絵本～剣淵を知るならまずはここから！

内装を絵本の世界のような空間にし、長時間滞在を狙う

現状の課題や問題点

「絵本の里剣淵町」らしさが少なく、他の道の駅との差別化ができない現状がある。

改善策

- ・ 剣淵高校の野菜を道の駅で販売する。
- ・ 高校生が考案した特産品の販売やSNSを活用した情報発信を行い、道の駅の魅力発信強化へ。

A班が描く道の駅の未来像

高校や大学、企業と町が連携し、剣淵町に戻ってきたいと思える町に！そして、活気が溢れる場所へ！

B班（佐藤桜羽さん）

ブランドイメージ

「他とは違う」「また来たい」「絵本の世界」

カギとなるメッセージ

家族で楽しめる空間～大人はリラックス、こどもは楽しく～

現状の課題

来館者の動線を整理し、大人がゆっくりしてこどもが遊べるスペースの充実を図る

改善策

- ・ 遊具や遊び場を増やす。（絵本の壁や巨大迷路等）
- ・ リラックス空間の提供（食事を楽しめる空間づくり）
- ・ 統一感のあるデザインに（外観や内観など）

B班が描く道の駅の未来像

「絵本で人と人がつながる」「大人から、こどもまでまた来たくなるような道の駅へ」！